

センマガ東京句会 5 月句評会 2007/05

少しだけ好きでずーっと長く好き ゆう子
面白い(くんじ)
かわいらしい(竜雄)
長音の表記について考えてみたい(朔太郎)(団扇)
「ずーっと」の長音は「ずうっと」という表記と比較してみたい(キミ代)
細く長くが隠れていて面白い(宣子)
ほんわかしていていい(成子)
心の隅をくすぐるのに効果的な表現だと思った(冬馬)
昔の大原麗子のCMを連想した(三十六)
作者 もしかして昔のCMが頭の隅にあったのかも

誉めてるのけなしているの個性的 倫也
「い抜き」と中の表現は絡み付いている感じが出ていていい(耕平)
よく経験する。個性的といわれたときの自分の気持ちと、そうってしまった自分の気持ち、どちらも上手く表現されている(和子)
作者 個性的という言葉はどうなんだろうという思い、日本人の文化というか心持を詠んでみた

整形で恋人そしてゴールイン 千枝子
半村良の小説のゴミを食べる虫の話の話を連想した(三十六)
作者 テレビなどでの整形前、整形後をみていて、へえーと驚いた感情を詠んだ

こそ泥の足音を消す夜半の雨 朔太郎
泥棒に入られた経験があると、ホントホントという上手い作品(成子)
物語、夜半の雪を連想(団扇)
作者 「こそこそ」という課題で作句した作品

稼いでる中央線は病気がち 竜雄
しょっちゅう事故を起こす中央線、いつも混んでいる中央線(三十六)
作者三十年近く仕事で利用したが、本当に混んでいる。ものすごく疲れる。あんなに混んでいるのに、ラッシュの解消に努力できないのだからかという思い

ピストルを持つと撃ちたくなるんです 三十六
アメリカの事件を上手く取り扱っている作品(千枝子)
国の事か個人の事か比較してみたい(くんじ)
アメリカ社会を表現「ん」が口語的でいい(ゆう子)
米社会、軍隊、日本、どのようにとってもいいのでは。人間社会をついている(耕平)
口語なのだが「撃ちたくなる私」と比較してみたい(キミ代)
アメリカの事件の事ですね。日本に置き換えると、銃を持っているのは警官

なので、そう考えると怖い(竜雄)
アメリカの銃社会。重い句だと思う(倫也)
本質的な部分で、持つと撃ちたくなるという表現がいい。ぞっとする(冬馬)
作者 憲法九条第二項の事を考えて作句

のびのびと伸びて葉ボタン苦笑い 哲夫
下五がどうか「高笑い」と比較してみたい(淳隆)
伸びきった状況を思うと面白い。下五「照れ笑い」と比較してみたい(宣子)
下五「苦笑い」とは別の表現と比較してみたい(ゆう子)
伸びすぎている葉ボタンを想像すると面白い(和子)
葉ボタンは擬人では、成長期の少年と見ると面白い下五「照れ笑い」と比較(三十六)
作者 下五で悩んだ「ごみにされ」ではキツイので、苦笑いとしたが、色々なご意見を頂きありがたい

十五の春の十八金の書き心地 団扇
昔は万年筆を贈ったが、今はどうだろうか(くんじ)
現代にすると古い(竜雄)(ゆう子)
下五で心地よさを思い出した(哲夫)
万年筆より別のもの、今はどうだろうか(和子)
昔を思い出した(成子)
十五と十八の掛け合いが楽しい(三十六)
作者 青春のノスタルジアというものを詠んでみた

飽食の国で嗤ったキリギリス 淳隆
キリギリスが飽食の世をあざ笑う感じが面白い(冬馬)
イソップの中のキリギリス。日本に来たキリギリスが童話の世界を嗤っている。「遊んでいても食べていけないじゃないか」と(遊琴)(団扇)
作者 蟻のことを笑ったキリギリスを詠んだ。ほらこんな国だってあるじゃないか

逆算の結果なんかじゃないあたし 耕平
バカにしないでよという自己主張が見て取れて面白い(倫也)
妊娠の事ではないだろうか(団扇)
作者 逆算のリスク。何時までにどうするという結果から逆算をした計画の脆さ。今をちゃんと生きようという思いなど

演説の脇で寝ているホームレス 帆波
政治かホームレスかどちらが悪いのかという提起(千枝子)
対比が面白い(哲夫)(成子)
状況の絵が面白い(竜雄)
世の中の事など何処吹く風といった状況(倫也)
銀座の画廊の批評が出来るのはホームレスだと聞いた話を思い出した(冬馬)
作者実際に眼にした状況。誰もが不思議に思わない不思議さ感じた

孫は来ず鐘馗の軸は垂れ下がる くんじ
ミスプリだった「軸だけ」のほうが中八音だが、強調されていていいと思った(淳隆)
孫の句はいい句がない(竜雄)
孫や母は作られすぎていて着想が出切っている(朔太郎)
作者 ご意見を聞いて、確かに孫の句は鼻につくかもしれない

人間傲慢絶滅危惧種危機 宣子
全部漢字で面白いのだがリズムが・・・(竜雄)
全部漢字で「危」の文字が二つある。最後を「ヒト」として比較してみたい(三十六)
「人間が絶滅危惧種かも知れず」という作りと比較してみたい(団扇)
作者 すべて漢字の作品に少し拘ってみた。以前のものは字を並べた竹という評価だったので、少しリズムなど工夫してみた

清貧が普通の暮らし里の村 冬馬
下五「過疎の村」と比較してみたい(淳隆)
清貧を理想化しているのかどうか、戦中は清貧も何もなかった(くんじ)
下五を他の表現と比較してみたい(和子)
下五は作者自身の里だろうか(団扇)
「飽食の国で・・・」の作品とつながる。わざわざ「清貧」という表現を使わなくともと思うが(遊琴)
「清貧の昔に戻る過疎の村」という表現と比較してみたい(三十六)
作者 下五は「過疎の村」を考えましたが、使われすぎていると思ったのでこの表現にした

知る権利かざしてマイク追って来る キミ代
分かりやすい(淳隆)
既視感がある。具体的なもの、例えばレポーターなどが出てもいい(竜雄)
テレビを見ていて驚く事がある。語らない権利を振りかざす事があってもいいのではと思う(倫也)
「知る権利」がマスコミのイメージを上手く浮き立たせている(冬馬)
マスメディアの傲慢さを見たとき、下五「突きつける」と比較してみたい。自分のポジションの取り方で句の印象が違ってくる。マスメディアを批判するのか、その先の視聴者まで批判するのか(耕平)
うん、あるあるという感じが面白い(成子)
作者 (コメントが漏れていました帆波)

肉体と心で生きる無我遠く 遊琴

作者の解説を聞きたい(宣子)

「肉体と心に遠い無我の境」という表現と比較してみたい(三十六)

無我の境地に入りたいが、色即是空になれない葛藤(団扇)

作者 諸行無常定法無我という考えになかなか到達できない思い

オ一天晴れメル友になる孫の距離 成子

孫の成長を喜んでいる作品(くんじ)

孫の句なので・・・(竜雄)

年配の方の初めてのメール「孫の距離」とは別の表現と比較したい(ゆう子)

作者 オ一天晴れとはご近所の奥様。